

社会福祉法人 駿河厚生会だより

ことぶき

第76号

発行／社会福祉法人 駿河厚生会

〒410-0022 静岡県沼津市大岡3571-1

TEL(055)926-8500

沼津フジビューホーム

TEL(055)926-8500

フジビューホームヘルプサービス

TEL(055)926-8501

沼津フジビューデイサービスセンター

TEL(055)926-8502

大岡居宅介護支援事務所

TEL(055)939-6701

かどいけ地域包括支援センター

TEL(055)939-6700

ケアハウス沼津グリーンヒル

TEL(055)926-8503

ケアハウス岡宮グリーンヒル

TEL(055)928-6811

丘の上保育園 TEL(055)941-5731

柏葉尾苑 TEL(055)955-8777



謹賀新年

駿河厚生会 理事長
沼津フジビューホーム
柏葉尾苑・施設長 河野義文

皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、格別のご高配を賜り、誠に有難うございました。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、昨年は、法人内の各施設において秋祭りや家族会など、例年どおりの活動ができる環境となり、感染症と上手に付き合っていく事ができてきたと感じております。また、ICTの導入が進み、その導入効果を仕事の中で職員が実感している点は、よく頑張ってくれている事を高く評価したいと思います。

そのような中、日本の人口動態を見ますと、今年は高齢者人口が急速に増え、生産年齢人口は減少傾向が加速してまいります。今後、ますます介護の担い手確保を図る手段を講ずる必要性を感じています。近年の8050問題といった福祉ニーズの複雑化と多様化、地域社会の変化に対応するための包括的福祉サービスの提供の重要性、どれも大変なことであり、社会福祉法人を取り巻く環境の厳しさは和らぐ事はありませんが、法人全体でどの様に乗り切っていくか、情勢をよく熟知して、経営に反映させていきたいと考えています。

新しい年の始まり

ケアハウス沼津グリーンヒル
施設長 松下裕美子

明けまして、おめでとうございます。皆様にはつつがなく新春を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

昨今、世界が注目するSDGsの目標「すべての人に健康と福祉を」を意識し、当施設では、皆様が自分らしく、そして生き生きとした毎日を送れるよう、様々な取り組みを行ってまいりました。

それぞれの居室で、皆様は個性あふれる生活を送られています。その多様性を尊重し、一人ひとりが自分らしくいられる環境づくりを目指してまいりました。また、コロナ禍で中断していた地域の方々との交流イベントも再開し、地域社会との関わりを、更に深めてまいりたいと思います。ケアハウスは単なる住まいではなく、皆様が自分らしく生き、そして共に成長していくための場です。

ご入居の皆様、ご家族、そして地域の皆様にとって、穏やかで実り多い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。



主な取り組み

ケアハウス岡宮グリーンヒル
施設長 山本 潔

今年度の主な取り組みの一つは、前年度までに策定した業務継続計画について、法で定められた研修と訓練を実施することです。

自然災害については、8月と12月に訓練を実施しました。後者については、委員会の委員以外の職員にも主体的にBCP活動に参加してもらう目的で、災害対策本部の班ごとにメンバーが集まって、訓練内容を話し合って決めてもらい、実施しました。訓練後も、各班で訓練内容ごとに結果を評価し、課題を洗い出し、事後の取り組みと次回の訓練目標について話し合ってもらい、毎月開催している委員会で結果を報告し合いました。

また、新興感染症発生業務継続計画については、9月に新型コロナウイルス感染症の感染者が出たことのないユニットを中心に、新たな感染症の感染者が出たことを想定して、その対応訓練を実施しました。

今後とも訓練を重ねることで計画の実効性を高めるよう努めます。



すべての子ども達に

丘の上保育園
園長 大川敦子

20年くらい前のこと。入園したてのR君はなかなかお昼寝の体勢に入れません。「遊園地に行つていい？」と言うので「いいよ。1回ね」と言う。一通り遊具で遊んで満足そうに帰ってきました。そう、「遊園地」とは「園庭」のことです。

保育園には遊具、砂場、土、草花、虫たち、太陽の光や風絵本におもちゃ、安心して遊べる空間があります。小さな子ども達にとっては確かに「遊園地」かも。この場所、たくさん「驚き」やつてみたいこと「友だちや異年齢の子ども達」との出会いや関わりを通して「遊び」を創れば、全身で生きていることを実感できるのではないのでしょうか。

そんな経験を「すべての子ども達に」と、国は『はじめの100か月の育ちビジョン』で謳っています。

次世代の社会の在り方が今の子ども達の育ちにかかっている、と。それは間違いのないのだと思います。

駿河厚生会は地域全体に目を向けています。子ども達の育ちを支える保育園として視野を拡げ、私達にできることは何か、より柔軟な姿勢で考えていかなければと思います。

地域密着型介護老人福祉施設

柏葉尾苑

施設見学の

受け入れについて

生活相談員 手塚 春菜

柏葉尾苑の開設から2年が経とうとしています。令和6年度は、外部からの施設見学を積極的に受け入れる年となりました。

春に、山梨県にある地域密着型介護老人福祉施設の施設長や介護主任等の方々が眠りスキャンや眠りスキャンeyeの運用及び活用方法を学ぶために来訪されました。柏葉尾苑では、職員が様々なICT機器の操作方法を習得して、実際に活用している様子をご覧いただきました。

夏には、東京都板橋区で活動している民生委員の方々が施設を訪問されました。令和4年の一斉改選において、10名以上の委員の方々が交代する中、コロナ禍の影響もあり、高齢者施設の見学ができない状況が続いていたとのことです。高齢者施設の一例として、現状を理解して頂くために、柏葉尾苑での取り組みについて、施設見学を通じてご紹介致しました。

同じ頃に、静岡県社会福祉人材センター主催の福祉のしごと学び体験

ツアーが行われ、静岡県内の中学生や高校生、さらにはその保護者の方々が参加され、施設の見学や実際にスライディングシートや移乗用リフト等の体験をされました。介護に関する事前アンケートでは、「体力的に厳しそう」「人手不足で大変そう」「重労働で、対人の仕事であるため精神的な苦勞も多そう」といった意見が多数寄せられていましたが、ツアー終了後のアンケートでは、

「介護機器を実際に体験し、現代の介護の形を理解できた点が良かった」「技術が非常に進歩していて驚いた」「ICT化により、介護者の負担が軽減される様子を体験でき、とても貴重な経験だった」など、見学して良かったという声をいただきました。

活動を観察に訪れました。生産性向上推進体制加算Ⅰの算定に際し、どのような取り組みを行っているかについて、主に説明させていただきました。意見交換の場では、多くの活発な意見が交わされ、私達にとっても非常に有意義な機会となりました。今後も、より良い介護のあり方を検討しながら進んでいきたいと思っております。



特別養護老人ホーム

沼津フジビューホーム

フロアーが変わりました

介護課長 藤森 綾子

今年度は一ヶ月間に渡るエレベーターの改修工事と、フロアーの改修工事が行われました。エレベーター工事中は、利用者様、ご家族様には、面会の制限等でご迷惑をおかけ致しましたが、おかげさまで、現在は快適に1階から3階まで行き来できるようになりました。

フロアーの改修工事では、畳敷きで段差がある訓練室のスペースを、足の上がりにくい利用者様でも機能回復訓練を行うのに、効率良く、快適に行えるよう、畳の撤去、段差の解消を行い、誰でも使いやすく、車椅子の利用者でもスムーズに入ることができました。今までは廊下の端にある平行棒で歩行訓練をしていましたが、平行棒を移動し、新しい訓練室で訓練ができるようになりました。利用者様がそこで訓練をしている様子が刺激され、「私もやってみようかな。」と、以前より前向きに参加されることが増えてきました。介護職員も、機能訓練士と一緒に頑張っている利用者様の姿を近く

で見ることができ、声援を送ったり励ましたりと、一緒に訓練を楽しむようになりました。床がフラットになったことにより、フロアー前にある大きな窓まで、車椅子でも近寄ることができ、今日の天気を確認したり、遠くの街並みを眺めたりなど、気分転換するのにも役立っています。とても良い空間を作っていたので、これからも利用者様が活動しやすいように工夫していきたいと思っています。



ご家族様とのイベント

3階フロアリーダー 鈴木 秀明

令和6年度は家族会を8月17日(2階)、24日(3階)と2回に分けて開催しました。両日とも、多くのご家族様に参加いただきました。誠に有難うございました。

新型コロナウイルス感染拡大が一応の終息を迎え、久しぶりの開催に、職員一同、不安と緊張の中、利用者様とご家族様との大切な時間をどのように過ごしていただこうかと、何度も打ち合わせ致しました。

当日は、同テーブルのご家族様と笑顔で話され、職員も一緒に過ごしていただき充実した時間を過ごすことができましたと思っています。

また、ご家族様より祖父・祖母・父・母と食事が出来た事、面会とは違った、長い時間を過ごせた事、ケーキと一緒に食べた事、日常の生活

をスライドショーで見れた事、職員から生活の様子を聞くことができた事、等の感想を頂き、職員一同とても嬉しい気持ちになりました。来年度以降も開催を続けていきたいと思っています。

10月26日には、秋祭りを開催し、こちらも多くのご家族様や地域の皆様にご参加いただきました。

ある利用者様は「家族会に続き、祭りにも孫が来てくれて嬉しかった。」と笑顔いっぱい話してくださいました。パササズのギター演奏や歌、きせがわ太鼓の演奏で、リズムに乗って体を動かして楽しんでいる様子がかげえました。又、フラダンスは、入所者様や職員もいっしょに踊って楽しそうでした。

模擬店の軽食では、食が細い利用者様のご家族より「おにぎりを2個も食べましたよ。」とお話があり、職員が利用者様に聞くと「そう！いっぱい食べたよ」と笑顔が返ってきました。

秋には遠足があり、参加予定の利用者様のご家族様にも声をかけ、一緒にご参加いただき、箱根に行ってきました。当日の様子を写真で、館内にたくさん飾っています。

家族会・秋祭り・遠足は、施設にとっては利用者様・ご家族様・職員の三者が長い時間一緒に過ごせるとても大切な行事と位置付けています。これからも感染症等に負けず開催できることを心より願っています。

沼津フジビュー ショートステイ

よりよい生活を
送るために

機能訓練士 中村 光希

利用者様から「やっぱりお家が一番良いよ。」と、よくお話いただきます。ショートステイをご利用される理由は様々あると思いますが、機能訓練の役割として、ご自宅での生活が一日でも長く続けていけるようなサポートができればと考えています。

訓練内容は、立位・歩行訓練や段差昇降訓練、ベッド上での関節可動域訓練など、一人ひとりに合わせた運動を行っています。他にも、動画を見ながら身体を動かす集団体操は、耳の遠い方でも参加しやすく皆様から好評です。

利用者様の中には、ご自宅までの移動で階段を使用しなければならぬ方がいます。その方は、ご自宅での生活を望んでおられ、ショートステイを御利用になる時は「今回も運動がんばります。お願いします。」と話され、前向きな気持ちで機能訓練に参加されています。

昨今では、介護現場でもロボットなどが導入されてきています。当施設でも歩行トレーニングロボットの

導入が検討され、現在試験的に利用しています。フレイル予防や心身の機能改善など幅広い方に使用することができそうです。
年齢を重ねていくと、飛躍的に身体機能が向上することは難しいかもしれません。ショートステイ御利用中に機能訓練に参加されることで、生

活の中での動きが円滑になり、より良い日常が送れるようにお手伝いさせていただきます。
ご自宅での困りごと、訓練内容のご要望等がございましたら、送迎時でも構いませんので、是非お聞かせください。



医務室より

冬季に有効なウイルス対策

看護課長 木元 聡美

冬の感染症対策として、今改めて注目されているのが「換気」と「加湿」です。インフルエンザや新型コロナウイルス等、特に呼吸器症状を引き起こすウイルスは乾燥と低温に強いいため、暖房や加湿器を使って室内の温度と湿度を上げることが、冬季に有効なウイルス対策の一つになります。

「換気」は物理的に風を起こしてウイルスを室内から追い出す対策で、「加湿」はウイルスが生存しにくい環境を作る対策です。2つを併用することでウイルスを減らす相乗効果がみられます。厚生労働省は「1時間に2回以上、2方向の窓を全開にして風の流れを作る」と示していますが、家庭では午前と午後1回ずつ行えば充分とのこと。当施設でも次亜塩素酸用加湿器を使用しており、かつ空気清浄機も新たに各フロアで購入予定です。基本は、マスクの着用、こまめな手指消毒、三密を避け、帰宅時のうがい手洗いを励行し、外からのウイルスを持ち込まない事。免疫力が低下しがちなこの時期、休養や睡眠をしっかり取って栄養バランスの良い食事で冬を乗り切りましょう！

沼津フジビュー デイサービスセンター

2025年の

デイサービス

ききょう生活相談員 小池 佳子

本年度は、外出行事等で外に出かける事が多かったり、丘の上保育園の子供たちと一緒におやつを作ったり、折り紙を折ったりと楽しく過ごしました。子供たちとの交流では、利用者様が、優しく笑顔になっているのが印象的でした。今年は、更に回数を増やして世代間交流を深めていきたいと思っています。

外出行事では、三島スカイウォークやネオパーク沼津、楽寿園の菊まつり、昼食を食べにららぽーとへ行ったりしています。やはりここでも皆様のお顔が笑顔で、「楽しい」とはしゃいでくれていました。今年は、もう少し遠くへも行きたいと考えています。

ご自宅で生活していく中で、今まで出来ていた事がゆっくり出来なくなってきたり、やる気や行く気にならなくなったりと変化が起きてくる方もいらっしゃると思います。そんな時には、「デイサービスに行ったら、こんな楽しい事があったよ」とか、「こんな所へ行ったよ」と、ご家族様に話

したくなるような、そんな楽しいデイサービスであり続けたいと思っています。

感染症にはこれからも充分注意していかねばなりません、が、より良い時を過ごし、皆様に元気で生活してもらえますよう、頑張っていきたいと思っています。

介護に向き合う ご家族様へ

さくら生活相談員 廣瀬 麻美

去る12月27日、デイサービスでは恒例の「紅白歌合戦」が行われました。当日さくらをご利用の9名全員でお揃いのリボンや蝶ネクタイをつけ「青い山脈」を歌い上げました。

いつも「どうしたらいい?」と困っていることが多いEさんも、足踏みをしてリズムを取りながら一生懸命歌っています。つい最近まで自宅に引きこもりがちだったHさんは、満面の笑みで手拍子しながら皆の歌を盛り上げてくれていました。食事や服薬を拒むことが多く、気持ちの変動が激しいSさんは、歌詞カードをひらひらさせてとてもご機嫌です。そして、普段は職員と散歩するのが日課のAさん。今日は舞台の真ん中で、まるで指揮者のように8名を率いてくれています。皆が声を出し、ひとつになつていました。

この日に向けて、計画から準備、練習まで、ご利用者様と一緒に職員も頑張ってきましたので、それと思うと、私の喜びと感動はひとしおでした。

デイサービスでは、入浴・食事・排泄の介助の他に、レクリエーション、機能訓練などの介護サービスを提供しています。季節行事や不定期で行われるイベントも実施しています。日々、介護にあたっているご家

族様の身体的・精神的負担は計り知れません。そのため、私たちはご家族様の介護負担の軽減という大事な役割も担っています。

ご自宅とは違うご利用者様の表情や様子をご覧いただけるかもしれません。お時間に少し余裕がございましたら、いつでも見学にいらして下さい。職員一同お待ちしております。



大岡居宅介護

支援事業所

介護者教室の開催

管理者 永田 雅也

大岡居宅では、R6年11月に介護者教室を開催して、大勢の方に参加して頂きました。今回の介護者教室では福祉用具の事業所に協力して頂き、介護ベットや車イスなど福祉用具を展示・体験会などを行いました。実際にエアマットの寝心地を試したり、車イスの操作や移動など、実際

に用具を用いて体験して頂き大変好評でした。今後、このような福祉用具が必要になった際に参考にしていただければ幸いです。今回は福祉用具の相談員の方にも参加して頂き、その場で相談会ができたので、参加者の皆様も熱心に質問されていました。ご家族によつては、福祉用具に初めて触れたり、体験した方も多かったので、有意義な時間となりました。

その後は介護者の皆様とケアマネジャーで、交流会を行って、日頃の介護についての悩みや工夫していること等を意見交換しました。普段の生活では介護者様同士で話す機会が少ないので、介護用品の話など共通する話題で盛り上がりました。私たちも

改めて皆様の話を聞いて、気付かされることがたくさんありましたので、今後もこのような交流会を続けていきたいと思っています。

また、大岡居宅では利用者様に協力頂いてアンケート調査を行いました。皆様のご意見を基に、日頃の業務やケアマネジメントに活かしたいと思っています。



永田 山口 酒井 望月 尾国

かどいけ地域包括

支援センター

噛むことは最大の防御なり！

センター長 中世古 彰

これまでも何度か取り上げているフレイルですが、沼津市では地域包括支援センターの圏域ごとに予防事業を順次開始しており、門池地区は令和7年度に開始となります。

フレイル予防事業では、東京大学の飯島教授が考案されたチェックリストを基に、住民の方々に手足の筋

肉量や握力の測定、滑舌テスト、片足立ち上がりなどのフレイルチェックを受けてもらいます。フレイルチェックを受けることで自分の状態を把握し、改善に向けた取り組みを行った後に再びチェックを受け、前回との比較をすることで、効果を実感しながら、継続的なフレイル予防の実践をサポートしていきます。

本事業においては、フレイルチェックを受けてくださる方と、私たちと一緒にフレイルチェックを行って下さるフレイルサポーターを募集します。サポーターとなるには養成研修を受講していただきますが、単にフレイルチェックを行うだけでなく、地域の方々がフレイル予防に取

り組むきっかけ作りをお手伝いいただけると幸いです。

本事業を機に、門池地区における介護予防の取り組みが広がるよう、地域の皆様にご協力をいただきたいと思います。詳細は順次お知らせしてまいりますのでよろしくお願い致します。



中世古 古田 中川原 田村

フジビュー
ホームヘルプサービス

冬の生活環境を整えましょう

訪問介護課長 杉山 志津子

冬になると、ニュースや情報番組で、ヒートショックという言葉をよく聞きます。ヒートショックとは、暖かい部屋から寒い部屋への移動など、「急激な温度変化で、血圧が上下に大きく変動する事によって起こる健康被害」です。失神や脳卒中、心筋梗塞などを引き起こす可能性があり、冬場は特に危険です。

入浴は体全体が露出するため特に注意が必要です。予防策として、①入浴前に脱衣所・浴室を暖めておく②湯温は41℃以下・お湯に浸かる時間は10分までを目安にする(半身浴が望ましい)③浴槽から急に立ち上がらない④食後すぐの入浴や飲酒後、医薬品服用後の入浴は避ける⑤お風呂に入る前に同居家族にひと声かける⑥入浴前後に水分を補給⑦かけ湯をしてから入る等があります。

トイレも要注意です。暖かい環境から冷たい廊下や寒いトイレへ移動する事で温度差が生じます。①スリッパを利用する②廊下やトイレに暖房を設置する③便座を冷たいままにしない④窓からの冷気を防ぐ等、日頃からなるべく温度差を生じさせない環境作りを大切にしてください。

ケアハウス 沼津グリーンヒル

故郷

入居者 柳澤 明子

私の故郷は信州（長野県）です。諏訪湖という大きな湖があります。海には一か所も接していません。私が初めて海を見たのは小学校の1泊の修学旅行中、信越線の汽車に乗って直江津まで行き、春日山という小高い山から眺めた日本海でした。

あの日の感激は70余年の今も忘れる事の出来ない思い出です。引率の先生方は、私達を最初に海岸に連れて行かず、小高い山の上から果てしなく続く海という存在を子供心にしっかりと焼き付けて下さったのだと、今にして思います。

私の夫は、たまたま帰郷していた長野で、令和元年に発生した台風19号に襲われ、道路が崩れ、車ごと千曲川に流されて帰らぬ人となってしまいました。

毎日泣いて過ごした日々もありましたが、ここ（ケアハウス）に暮らしている皆さんは、一人暮らしでも前を向き、頑張って明るく生活されています。私も毎日、ケアハウスの廻りを散歩し、足腰を鍛えています。一日でも長く自分の事は自分で出

来る生活を続けられるように頑張ろうと思っています。



厨房便り

丘の上保育園

管理栄養士 佐野 美穂子

丘の上保育園では、食育の一環として月に一回、ブックメニューの日を設けています。ブックメニューとは子どもたちになじみのある絵本のなかから、お話の中に登場する料理を給食で再現したり、絵本に出てきた食材を、実際に見たり触ったりする体験を指します。今年度は「おべんとうバス」という絵本にでてくるお弁当を給食で再現したり、「そらまめくんのベッド」という絵本をヒントにそら豆の皮むき体験など、数々のブックメニューを提供してきました。

先生方が対象の絵本を読んでくださるので、園児たちの反応もとても良いです。実際に、耳で聴いて目で見て触れる体験は、子どもたちの五感を大いに刺激し、心豊かな成長の助けになっているのだと感じます。年度末に向けて、ブックメニューや行事食がまだまだたくさんあります。こういった機会を通して、子どもたちが食事に興味を持ち、健やかに成長できるよう日々頑張っています。

沼津フジビューホーム 沼津グリーンヒル 柏葉尾苑

管理栄養士 杉山 薫

現在本部栄養士が育休に入っており、本部施設と兼任で勤務しております。どうぞ宜しくお願い致します。



さて、昨年3月から調理工程がセントラルキッチンシステム（以下CK）になり、約一年が経とうとしています。CKでは、日々のお食事を楽しんでいたために、毎月給食検討会を開催して利用者様や職員の要望をあげさせて頂き、厨房にその場で伝えて話し合いを重ねています。

カレーライスの味一つ取っても、様々な意見を調整し、この度は一段と改良して施設好みの味を見つけていく事になりました。通常の行事食については概ね好評で、食事を楽しんでいただくためのメッセーじカードや、季節に合わせたグッズ等を利用しながら、提供しています。

食事は生活の中の大きな楽しみの一つです。これからもより良い食事を提供できるよう努めて参ります。

岡宮グリーンヒル

管理栄養士 福田 愛子

先日、嗜好調査を実施させて頂きました。皆様から頂いた貴重なご意見をもとに、今後の食事提供に活かしていきます。

調査の結果、最も人気の高かったメニューは「カレー」、次いで「天ぷら」「酢の物」「寿司・ちらし寿司」でした。特に「カレー」は非常に多くの方に好まれており、今後は月に1回、カレーを提供することを決定しました。様々な種類のカレーをお楽しみいただけるよう、工夫していきたいと考えております。

一方で、苦手な食事として「鶏肉」「山芋」「納豆」「鯖」などが挙げられました。これらの食材については、個別に対応し、できるだけ食事を楽しんでも頂けるよう、調整を行っていきしたいと思います。

今後も厨房一同、皆様の嗜好に配慮し、さらに満足いただける食事の提供ができるよう努めてまいります。



献立 メニュー 旬の食卓

『鮭の柚子マヨソース』



ソースに使用する柚子胡椒に含まれる、リモネンは脂溶性の香気成分で血行を促進する効果があります。また、辛み成分のカプサイシンは代謝を活性化するため、寒い冬の風邪対策にピッタリです。マヨネーズが入ること、まろやかに、辛みが苦手なお子様や高齢の方にもおいしく召し上がって頂けます。

『材料』（2人分）

・ 鮭	
マヨネーズ	2切れ
・ ソース	
柚子胡椒	小さじ1/2
はちみつ	小さじ1/2
塩	少々
コショウ	少々

『作り方』

- ①ソースの材料をよく混ぜ合わせる。
 - ②鮭にソースを塗る。
 - ③オーブントースターで8分焼く。
(1000W、220℃)
- ※ご家庭のトースターにより焼き時間が変わりますので、調整して下さい。

特定施設入居者生活介護

ケアハウス

岡宮グリーンヒル

音楽の力

生活相談員 土屋 絵莉香

岡宮グリーンヒルでは、施設内で毎月様々な行事が開催されています。その中でも、演奏会を積極的に行っており、入居者の皆様からも好評をいただいております。音楽の力は、人の心を癒し、動かし、時には言葉以上のコミュニケーション力を発揮していると感じています。

毎月ボランティアで訪問して下さっている『りえちゃん演奏会』。りえちゃんのピアノやりえちゃんの仲間のギターに合わせ、季節の歌と一緒に歌う時間は、入居者の皆様にとって大きな楽しみの一つとなっています。普段、あまりお話しならない入居者様も音楽が流れると、自然と大きな声でうたい、表情が明るくなります。懐かしい歌をうたうと、その時代の思い出が蘇り、会話が弾みます。音楽は人と人の心を繋げる力を持っていると感じる瞬間です。

11月に開催された家族会では、入居者様とご家族様が一緒に楽しい時間を過ごせるよう、りえちゃんバンドをお招きしました。バンド演奏の

リズムに合わせて、笑顔で手拍子をされ、力強いボーカルに合わせ歌を口ずさみ、参加された入居者様、ご家族様からは「楽しかった」「皆が楽しんで良かった」「またやってほしい」との声をたくさんいただきました。音楽で繋ぐ笑顔の輪を今後も大切にしたいと思います。

また、秋祭りでは、恒例となった飛龍高校の和太鼓演奏が、参加された皆様に深い感動を与えてくれました。大太鼓に小太鼓、大地に響く力強いバチさばきでみんなの息がぴったり合っていて、さすが県大会で優勝するチームなんだと実感致しました。本当に素晴らしいかったです。

その他にも、今年度は、ベルバンド様、爺婆寿(ジーバース)様、あしたかシスターズ様などの演奏会を開催していただきました。これらの演奏会を通して、入居者様の日々の暮らしにきらきらとした輝きが添えられていることを願い、今後も様々な演奏会を開催し、皆様の笑顔を見ることができるといと思っています。



岡宮グリーンヒル デイサービス

機能訓練外出の様子

生活相談員 佐野 宏枝

今年も、デイサービスでは利用者様と一緒に楽しい外出活動を実施しました。外出を通じて、日常生活に活力を与え、心身の健康をサポートすることを目的とした「機能訓練外出」です。毎月異なる目的地で、皆様に楽しんでいただきました。

6月の外出は、皆様一緒に千本浜公園に出かけました。穏やかな海の景色を眺めながら、爽やかな風にも心も体もリフレッシュした日で、昔から変わらない海に、思い出話で盛り上がりたてました。

7月には、浮島ひまわりランドを訪れました。一面のひまわり畑に、皆さんの表情もパツと明るくなりました。気温が高い時期ですので、ゆっくりはできませんでしたが、自然の美しさに触れ、記念撮影をして、心温まるひとときを過ごしました。

8月の夏祭りは、室内で行いました。目玉は屋台さながらの射的でした。的をねらって銃を構える姿は、皆様いきいき輝いて童心に戻ったようでした。楽しかったですね。

9月は、利用者様一人一人の希望

に合わせて、個別の外出を企画しました。ある方は、ららぽーとを訪れ、買い物を楽しみました。またある方は、カラオケボックスに行き、十八番を聞かせてくれました。皆様がご自身のペースで、希望の場所を訪れる事で、より一層の幸せを感じていただけるように努めました。

今年度の外出活動は、機能訓練と共に心のリフレッシュを大切に、皆様にとって充実した時間になる事を目的としています。様々な場所で楽しく、安全に外出できるよう、活動していきます。次回もどうぞご期待ください。



医務室より

今冬に多い感染症とその予防対策

看護課長 鎌田 美智

今冬は、「新型コロナウイルス」に「インフルエンザ」、「マイコプラズマ」が加わり、「トリプルデミック」と呼ばれる危険性が高まっています。更に、そこに消化器感染症「ノロウイルス」が加わりますので、より一層の予防対策が求められてきます。施設では感染症予防対策の最も基本である、手洗い・うがい・マスク着用、体調管理に努めています。

去る九月六日、事業継続計画訓練も兼ね、感染症予防対策委員会を中心に「新興感染症発覚時の初動対応」を職員研修で行いました。また、委員会メンバーがユニットを訪問し、ノロウイルス感染拡大予防の為、嘔吐後の処理訓練を実施しました。ウイルスは目に見えないもので、感染リスクが上がります。入居者様に元気にお過ごし頂けます様、日頃から健康チェック、居室等の環境衛生に努めたいと思います。



丘の上保育園

できるようになったよ！

もも組・0才児

保育士 市川 ゆい

入園当初、保護者の方から離れる寂しさや不安で泣いてしまっていた子も、今では安心できる保育者の元へ手を伸ばし、笑顔で登園してくれるようになりました。

もも組の子ども達は日々成長中！この間まではハイハイやよちよち歩きで探索活動を楽しんでいたが、最近ではトカゲ広場の斜面を登る事や、長い距離でのお散歩も出来るようになり、全身を存分に使って遊んでいます。お散歩では、車や近所のお家の犬など、新しい出会いがたくさん。「ぶーぶ」「わんわん」など見つけた物を指差し、保育者に嬉しそうに教えてくれています。「ぶーぶ、かっこいいね」「わんわん、かわいいね」などと共感し、一人ひとりの発見に寄り添い、一緒にお散歩を楽しんでいます。

また、衣服の着脱や食事など、自分で出来ることも少しずつ増えてきました。出来た時には「できたね！」「たくさん褒めて自信に繋がられるような声掛けを心掛けています。」

子ども達が日々成長している姿を見逃さず、一日一日を大切に関わっていききたいと思っています。



友だちと一緒に楽しいな

たんぼ組・1才児

保育士 山本 梨絵

たんぼ組での生活も残り数カ月となり、日々たくさんさんの表情を見せてくれている15名の子どもたち。これまででは一人ひとりお気に入りの玩具で遊ぶなどマイペースで好きな遊びをしていましたが、最近では友だちと一緒に遊ぶ姿が増えてきました。「いっしょにやりたい」「いーれて」と話す子、(何をしてくれるのかな？)(楽しそう)と近付いて覗き、真似をして遊ぶ子。友だちへの興味が増して自然と同じ所に集まって遊ぶようになったりと、みんなそれぞれの関わり方で友だちと一緒に過ごす時間を楽しんでいます。

遊びだけではなく、生活の中でも友だちの存在は特別。給食ではたくさん食べてピカピカになった皿を見せ合ったり、服や靴を履いて見せ「せんせいみて！」と刺激を受け合いながら出来ることも増えてきました。今では散歩も友だちと手を繋いで歩くように。時には思いがぶつかるともありますが、そんなやりとりも友だちという存在がいるからこそ温かく見守っています。「楽しいな、嬉しいな」を共感しながら友だちと一緒に成長していく姿が楽しみです！



大きくなったね！

すみれ組・2才児

保育士 若山 穂花

4月、新しい環境に不安そうな顔をしていた子どもたちですが、今では心も体も大きくなり、とてもたくましい顔をしています。

日々生活する中で色々な成長を見せてくれる子どもたち。特に遊びの場面では、好きな遊びを一人で満足するまで遊びこむ姿や、ルールのある遊びなどを通して、「○○くん！一緒に追いかけてこしよう！」とお友だちと一緒に遊びを楽しむ姿も多く見られるようになりました。お友だちと関わる機会が増えた分、時におもちの取り合いや、お互いの気持ちがあぶつかり合うこともあります。ですが、「ぼくはこれが使いたかった。」「じゃあ、終わったら貸してあげるね。」などと、自分の思いを言葉で伝え、保育者が間に入らなくても子どもたちだけで折り合いをつけることもあり、私たちも子どもたちの成長を感じています。

すみれ組さんでの時間も残りわずか。もうすぐ新しい制服に身を包み、お兄さんお姉さんたちの仲間入り。これからもっと大きく成長する子どもたちを見守っていききたいと思います。



一緒に遊ぶって楽しい！

すずらん組・3才児

保育士 勝又 新菜

今年度も終わりが近づき、お友だちとの関わりをより楽しむ姿が見られています。すずらん組が始まったばかりの頃は、自分の好きな遊びを一人で楽しんでいました。しかし、運動会を境にルールのある遊びを皆で行うと、お友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じる子が増えてきたようです。また、勝利に喜び、負けると悔しいという気持ちも芽生えてきました。負けると「もう一回やりたい！」と再挑戦することもあります。最近では、バナナおに・ハンターごっこなどの様々なルールのある遊びに挑戦しています。中でも転がしドッチは繰り返し楽しみ、「転がしドッチやる人！」と自分たちで誘い合って、遊びを繰り返し広がっています。時には自分の思いが通らず、お友だち同士でトラブルになってしまう時もありますが、そこから相手の思いに気付き、思いやる心が育ってきています。また、困っているお友だちに気付き、手助けしようとする姿も見られます。これからも、様々な場面でお友だちと関わり、お友だちと一緒にいることの心地よさを感じられるように見守っていききたいと思います。



ともだち

ゆり組・4才児

保育士 水野 加菜

年中の担任をしてみても、この時期は仲間意識が強くなるのだと感じました。友達のことを気になって「どうやって話かけよう」と4歳児なりに考えて行動してみただけ相手に上手く伝わらず、「聞いてみたけど仲間に入れてもらえなかった」と困惑する場面が何回もみられました。同じ遊びをする中で仲良しの友達とはできたけど、距離が近すぎてすぐけんかをしてしまうこともあります。最初は保育者に困ったことを訴えるだけでしたが、トラブルの回数を重ね、自分たちだけで「ごめんね」をはじめとした和解もできるようになってきて成長を感じています。

また、行事やルールのある遊びを通して友達と協力する姿や、友達を思いやる姿も多くみられました。友達と力をあわせるのは難しく、勝負事は熱い思いになっても勝つことには結びつかず悔しい思いも多く経験しました。でも上手いかなかったり、挫けそうになった時は、そばにいる友だちの存在や友だちの励ましの一言でまたがんばろうとする思いが芽生え、パワーにつながるんだなあと今回改めて思いました。



ひまわりチャレンジ

ひまわり組・5才児

保育士 土屋 良太

今年のひまわり組では、ひまわりチャレンジと題して、12人全員で1つの事にチャレンジしてみようと、メデイシングボールに取り組んできました。最初の頃はミスが多く良いタイムが出ませんでした。話し合いをしてもミスした子を責めたり、マイナスなどところを言い合ったりする場面が目立ち、「チームワークが大切だよ」と、1人の子に少しだけヒントを与えたところ、みんなで声を出し合ったり、励まし合ったりする様になり記録も伸びてきました。また、運動会では保護者の方々と対戦してみました。結果は残念ながら敗戦。普段はあまり感情を表に出さない子が大泣きする姿に、この悔しい気持ちを大切に、次に繋げてほしいと思いました。今は「リベンジしよう」と燃えている子ども達です。

1つの目標に向け、12人全員で話し合い、チャレンジしてきた中で、自分の意見を伝える事やいろんな人の意見を聞く事の大切さを知ったり、目標に向けみんなが頑張る楽しさを感じたりする様子がみられるようになり、子ども達の成長を感じています。



子育て支援センター 「スモス」

「防災講座」を開催して

保育士 古郡 由里子

かねてより育児講座で希望していた「防災講座」に、ふじのくに防災士下山田さんを講師としてお迎えし開催することができました。9月の防災月間に合わせて実施しましたが、前月8月に初めて発表された南海トラフ地震臨時情報により防災対策への関心が高まっていたことも重なり、多くのお母さんの参加希望がありました。

「子育てママのはじめての防災講座」と題して災害対策に必要な普段の備え、災害が起きた時に取るべき行動、復興時にすることは何かなどポイントを挙げて詳しくお話し下さいました。小さなお子さんのいる家庭に備蓄すべき飲み水、食料、おむつの数と種類の説明、災害時トイレ問題の対応、情報収集アプリの紹介はお母さん方に大変役立つ内容でした。講座の最後に「無理せず頑張りすぎず自分と家族に必要なものから始めよう」とアドバイスを頂き「やってみます」と応えるお母さんの声も聞かれました。防災への意識を高めることができ、支援センター職員にとっても参考になる有意義な育児講座となりました。



一時預かり保育室 「なでしこ」

安心・安全に努めて

保育士 芹澤 久美子

保護者の方の短時間就労や通院・リフレッシュ等様々な理由から利用希望の保護者のお子さんを当施設でお預かりしています。

今年度も新規の利用希望の問い合わせが多数あり、昨年度からの継続利用希望者の方も含まれますと、4月当初から随分多くの方にご利用頂いています。

初めてご利用頂くお子さんには数回の慣らし保育を経てからのお預かりとさせて頂いています。初めての環境に泣いて過ごすお子さんも、保育者や同じお部屋で過ごすお友達、保育園の園児達と触れ合う中で可愛い笑顔を取り戻し、遊びに夢中になっていく姿を見て安心いたします。

今年度は継続利用の方が多かったのですが、新規利用のお子さんとも年代のお子さんとの関わりの中で、砂場や固定遊具等の戸外遊びや室内でのままごと遊びなどを楽しんでおり、その姿は微笑ましいものです。

一日の僅かな時間ではありますが、保護者の方やお子さんが安心して通える保育室として、今後も安全



なお預かりを心掛けていきたいと思っております。

フジビュー 研修センター

事務局 稲村隆志

今期の介護職員初任者研修も、おかげさまで無事に受講者全員が修了を迎えました。受講いただいた皆様には、4ヶ月以上にわたる長期研修、本当にお疲れ様でした。

毎年、様々な方が当講座を修了されています。介護の仕事に就いている方だけでなく、ご家族の介護をされている方、知見を広げたいという方も多くいらっしゃいます。

今年、ある修了者の方から、数千字にわたる手紙を頂きました。丁寧に綴られた文面から、ご自身が研修を受けて学んだことや発見、またこれからの生活に対するありのままの想いが伝わり、職員一同おおいに励まされ、感激致しました。

仕事に就くかどうかを問わず、ケアの視点は私たちにとってとても普遍的なものです。当センターとしても、初めて学ぶ方々にとってオープンで分かりやすく、またなるべく日々の暮らしの糧になる講座であるように努めているところです。ご興味のある方はぜひ気軽にお問い合わせください。次回コースは2025年3月頃から募集開始予定です！

ケアハウス 沼津グリーンヒル



ぬり絵



手作り帽子



巳年のマスコット



クリスマスツリー



刺し子

世界で たった一つの 作品

デイサービス
岡宮グリーンヒル



カレンダー作り



クリスマスツリー

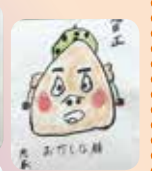
ケアハウス 岡宮グリーンヒル



絵手紙



おり紙



おかしい顔
絵遊び



書道

編集 後記

新年おめでとーございませう。今年も広報誌「ことぶき」をよろしくお願い致します。年2回ほどの発行ではありますが、施設の様子を皆様にお届けできればと、みんなで協力し合って作成しております。昨年は、感染症対策をしながらたくさんの方の行事を実施することができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

印刷所／東海カレンダー三島 伊豆の国市大仁21

BCCP(事業継続計画)進んでいます

昨年は、門池地区連合自治会様と、地域福祉や災害時に備えて、パートナーシップ協定の締結に至りました。地域の中で協力し合い、助け合っていくことはとても大切なことです。

当法人には、災害時に、現地にて活動しようという志の職員がいて、DWAT(県災害派遣福祉チーム)として登録されています。その活動の様子を皆様に広く知っていただくため、秋祭り会場にて、県社協様よりお借りしたパネルの展示を行いました。熱心に聴いて下さった皆様に感謝申し上げます。

